

## 沖縄県公安委員会定例会会議録（令和８年９月３日）

### 1 主な報告等

#### (1) 夏休み期間中におけるイベントについて

警察本部から「警察業務への理解を浸透させるとともに、子供やその保護者等が警察官と接することで警察官という職業を身近に感じ、憧れを抱くこととなる契機を積極的に創出することを目的として、夏休み期間中に参加型イベントや庁舎見学等を実施した。警察本部庁舎見学では、警察犬のデモンストレーション、鑑識活動の体験、パトカー・白バイ等の乗車体験、警察本楽隊による演奏等を行った。その他、警察学校における逮捕術、点検礼式の見学や各警察署におけるミニ警察展、警察本部警務課による野球連盟主催の採用説明会等が行われた。今後の取組として、「女性対象、保護者対象の採用説明会」「専門学校及び高校生を対象とした採用説明会」等の採用募集活動を予定している。」旨説明があった。

公安委員から「採用募集活動として多様なイベントを行っていて、とても良いことだと思う。」旨発言があった。

公安委員から「採用募集活動は、警務課だけの問題ではない。県警職員の一人一人が、子供達が「警察官になりたい」と思ってもらえるような行動を行ってほしい。」旨発言があった。

#### (2) 民間事業者等と連携した特殊詐欺対策について

警察本部から「民間事業者等と連携した特殊詐欺対策として、本年８月13日、浦添市所在株式会社FM沖縄において、同局でラジオパーソナリティーを務める堀家盛司氏を「ちゅらポリス防犯広報官」に任命した。堀家氏には、今後、同広報官として、ラジオ番組やイベント等における特殊詐欺をはじめとする防犯に関する効果的な情報発信・広報啓発を行っていただく。日本郵便株式会社が本年８月17日から同月21日までの間、県内郵便局（175局）において、利用者に対する特殊詐欺の注意喚起及び警察庁推奨の特殊詐欺対策アプリのダウンロードの支援を行った。本年７月から当面の間、パナソニック・コンシューマー・マーケティング沖縄株式会社と連携し、特殊詐欺の手口等を掲載した広報チラシを作成、街頭における配布や市町村、企業への配布、防犯講話の機会を利用した配布等を実施する。」旨説明があった。

公安委員から「特殊詐欺対策アプリを初めて知った。もっと広報活動が必要かと思う。「特殊詐欺」という言葉は分かりにくいように感じるので、伝え方の工夫には余地があると思う。」旨発言があった。

公安委員から「最近の警察の取組は、大型商業施設等に出向いて、イベントのことを知らない買い物客等にも周知を図るなどしており、とても良いと思う。年配者は、コミュニティラジオを聞きながら作業をしていることが多いと聞くと、コミュニティFMについても、FM沖縄と同じような取組はできないか」旨質問があり、警察本部から「各警察署において、コミュニティFMと連携して同対策等を行っている。今後も同取組を広げていきたい。」旨説明があった。

公安委員から「各種取組について、民間企業との連携が進んできていると感じて

いる。ラジオは年配者にとっても有効な媒体である。方言を使った番組での広報も考えてほしい。」旨発言があった。

(3) 令和8年上半期（1月～6月）の窃盗犯認知・検挙状況について

警察本部から「令和8年上半期（1月～6月）の窃盗犯認知・検挙状況（※数値は全て暫定値）について、全窃盗犯の認知件数は3,478件（対前年同期比+371件）、検挙件数は1,358件（対前年同期比-93件）、検挙率は39%（対前年同期比-7.7ポイント）、検挙人員は780人（対前年同期比+26件）であった。重要窃盗犯の認知件数は198件（対全同期比+21件）、検挙件数は112件（-49件）、検挙率は56.6%（-34.4ポイント）、検挙人員は65件（対前年同期比+9件）であった。全窃盗犯の検挙人員は全国1位、重要窃盗犯の検挙率は、全国26位であった。同期間中の主な検挙事例として、一般住宅を対象とする住居侵入・窃盗（忍込み）事件（被害額56万円）、沖縄本島中南部におけるガラス割りの窃盗（車上ねらい）事件（被害総額約80万円）の被疑者をそれぞれ通常逮捕した。」旨説明があった。

公安委員から「侵入盗は、居直り強盗に発展する可能性もあることから、しっかり対応してほしい。」旨発言があった。

(4) 交通街頭活動中の受傷事故防止対策状況について

警察本部から「「安全はすべてに優先する」をモットーに交通街頭活動中における受傷事故の絶無を期すため、組織と警察官の資質の向上を図ることを目的として、交通街頭活動中の受傷事故防止対策を実施した。受傷事故発生状況について、県内では平成元年以降41件発生しており、午前零時から午前6時までの間に31件（構成率75.6%）発生し、部門別では地域警察官が31件と最も多い。発生形態は、「車両の前に出る・立ちふさがる」「逃走車両を捕まえる」が最も多い（28件（構成率68.2%）。本年7月9日、警察学校と交通指導課が連携し、警察学校において、初任補習科生46名に対し、死角の確認や蒸発現象（夜間に自車と対向車のライトが交差することで、その間にいる歩行者等が見えなくなる現象）等の実践的な受傷事故防止教養・訓練を行った。各警察署においても、夜間の視認性の確認や人の力で車両を止められるかの体験等の教養・訓練を行った。」旨説明があった。

公安委員から「警察官は使命感から、逃走車両の前に出てしまうことがあると思うが、自分を守る行動が必要だという教養も併せて行ってほしい。」旨発言があった。

公安委員から「以前、緊急走行中のパトカーが十字路を走行中に、バイクが衝突する事故を見たことがある。そのような事故防止についての対策はしているのか。」旨質問があり、警察本部から「追跡中の事故防止対策については、通信指令課から適宜、事故防止にかかる指令を行っており、追跡中の事故防止にかかる教養・訓練も行っている。」旨説明があった。

公安委員から「安全はすべてに優先する。事故防止対策として装備資機材の整備も必要である。」旨発言があった。

(5) その他

警察本部から全国的に警察官採用試験応募者数が減少している中で、委員から御指摘があったとおり、子供達から「警察官になりたい」と思われるような活動行動

について、全ての警察官が気をつけていかなければならないと考えている。特殊詐欺対策については、広報が情性にならないようにしていくとともに、広報啓発はタイミングや内容をしっかり考えて行っていきたい。」旨説明があった。

## 2 主な決裁等

### (1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受付について
- ・ 公安委員会宛て意見要望について
- ・ 公安委員会関係報告
- ・ 公安委員会宛て保有個人情報開示請求について
- ・ 警務関係報告
- ・ 裁決書の裁決について（2件）
- ・ 審査請求の受付について（3件）
- ・ 執行停止申立てに対する不停止決定について
- ・ 監察関係報告

### (2) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について
- ・ 自動車及び特定小型原動機付自転車に関する飲酒運転等の処分量定について

### (3) 警備部

- ・ 警察職員の援助要求について